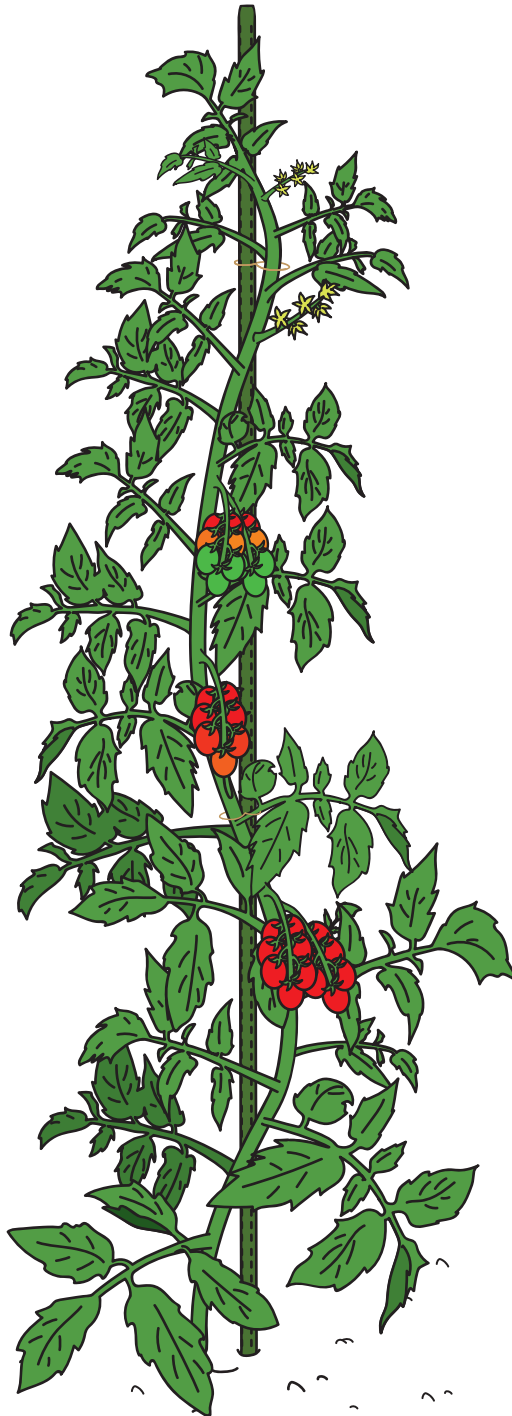


How to grow Delicious Tomato

美味しいとまとの育て方



トマト栽培マニュアル

1. 準備

畑の場合、土質はあまり選びませんが、排水性が良く保水力があり、有機質（落ち葉や堆肥など）が多いと良いですね♪

鉢植えやプランターの場合は、一般的に売っている培養土（野菜用）で大丈夫です。どれくらいの肥料が入っているかを確認しておきましょう。（一般的な培養土は肥料入りが多いです。）
※鉢植えは1株当たり10号以上推奨。プランターは60cmで2株まで。

必要な道具、基本肥料は以下の通りです。



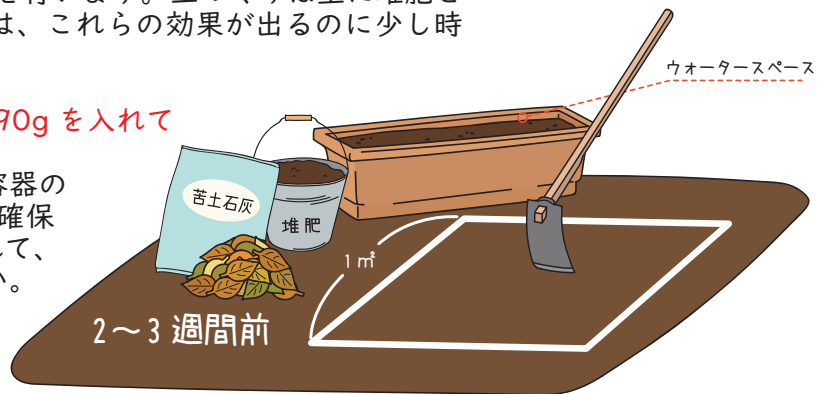
移植ごて ジョウロ 支柱 ハサミ 麻紐（誘引紐）
化成肥料 8・8・8 苦土石灰 堆肥 稲わら 落ち葉など

2. 土づくり

植え付けの2～3週間前に、土づくりを行います。土づくりは主に堆肥と苦土石灰を入れます。先に入れる理由は、これらの効果が出るのに少し時間がかかるからなんです。

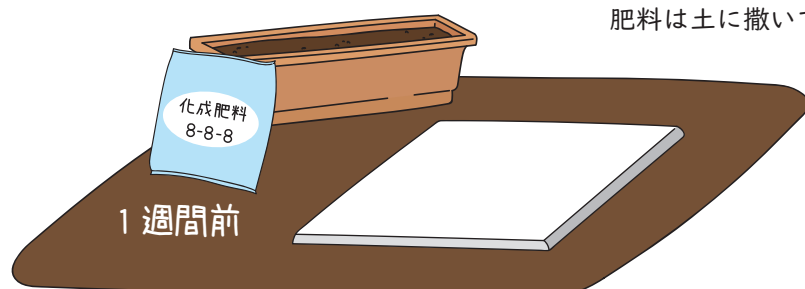
1株あたりに堆肥を1kg、苦土石灰を90gを入れて土とよく混ぜてください。

鉢植えやプランターの方は、培養土を容器の8割くらい入れ（ウォータースペース確保のため）、苦土石灰を上記の半分を入れて、培養土とよく混ぜてからご使用ください。



3. 施肥と畝立て

1株あたりの施肥量の目安は化成肥料8・8・8を60g程度です。鉢植えの方は上記の半分（1株あたり）を目安に入れてください。（肥料入り培養土の場合は不要です。）
肥料は土に撒いてからよく混和してください。

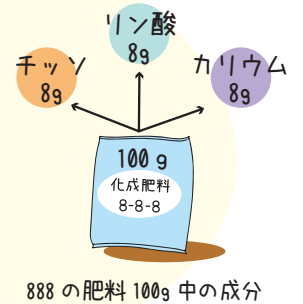


※図は白マルチを設置したイメージです。

最初から肥料を入れすぎると草勢が強くなり花が咲かなかったり、実が付かなくなる原因となりますので注意してください。畝高の目安は10cm程度ですが、水はけがよければ低くても大丈夫です。その後、マルチやワラを設置して完了です！苗を植える1週間前までに終わらせておくのがベストです。

ワンポイントアドバイス
肥料の計算

肥料の袋にはよく「8・8・8」や「8・6・6」と書いてあります。これはその肥料に入っている肥料成分のうち、チッソ・リン酸・カリウムがそれぞれ8%ずつ、あるいは8%、6%、6%入っているという意味です。トマトの栽培では約60gの888化成肥料を入れて頂きますが、これは1株当たり、チッソ成分で約5g必要なことから算出したものです。60gの8%=4.8gとなり、必要量を与えることができます。品目によってはチッソが多めだったり、カリウムが多めに必要な場合もあり、その時は他の肥料と組み合わせて調整することもあります。



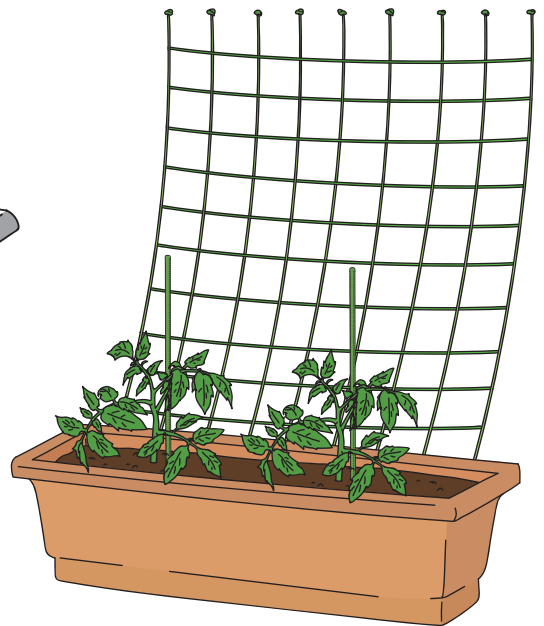
4. 支柱・ネットの設置のイメージ

1本仕立て



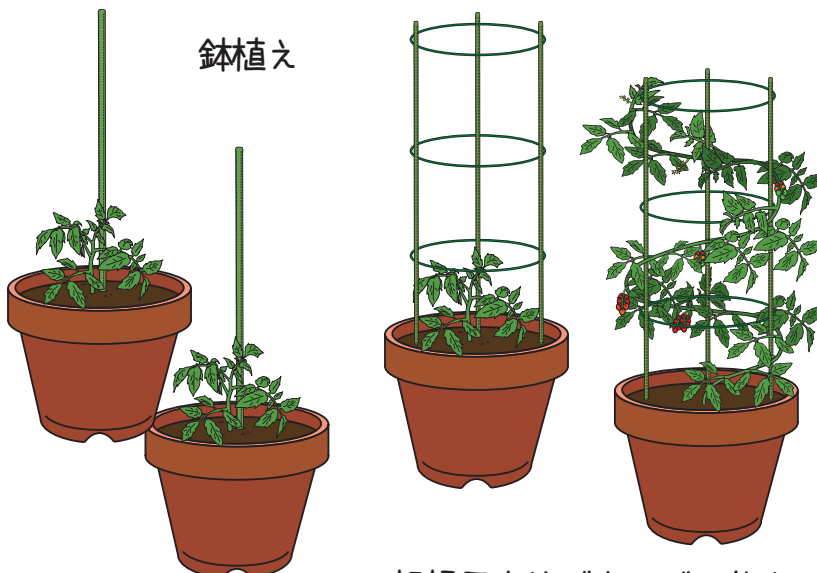
株間は50cm程度空けてください。

グリーンカーテン
(ソバージュ栽培仕立て)

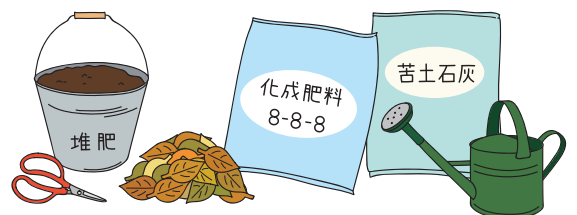


プランターは大きめのものを

鉢植え



朝顔用支柱であんどん仕立ても○



5. 植え付け前の準備

苗がお手元に用意出来たら、土の状態を確認してください。土が乾燥しているようであれば水を与えてください。ジョウロなどで上からかけると茎が倒れてしまいますので、株元に与えるようにしてください。
植え付けまでに時間が空いてしまう場合は毎日灌水を行い、日に当てるようにしてください。苗の回復イメージはYOUTUBEをご覧ください！

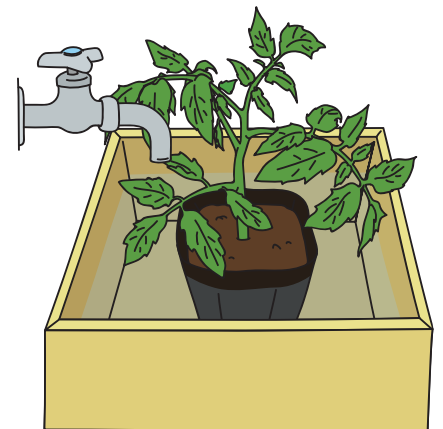
日に当てず光合成ができない状態が続くと、徒長して肥料吸収も悪くなり黄化が進んで定植に適さない苗となります。

苗の回復



6. 定植

苗は準備が出来たら早めに植え付けてください。植え付けの時は、苗を液肥に「どぶ漬け」してから植え付けることをお勧めします。青空トマト学園オンラインショップで買うことができる付属の「ダッシュMEネオ」と「プロモートR」を4Lの水に2ccずつ入れてよくかき混ぜ、その液肥に苗をポットごと漬けます。使い終わった液肥は捨てずに根締め灌水（植穴と苗をなじませる水やり）にお使い頂けます。



どぶ漬け

植穴には付属の「微生物とその棲家」を15gほど入れてから定植してください。

こうすることで初期の根張りが格段に良くなりますよ♪



根締め灌水

定植が終わったら「根締め灌水」をします。どぶ漬けに使った液肥を撒いてください。周りの土とのなじみやすくなります。

あとは仮支柱を立てて苗が風で折れたりしないように養生します。

誘引には麻ひもなどが使いやすいです。

7. 水やり

水やりは曇天や雨の日以外は基本的に毎日行います。「え、トマトって水を切ったほうが美味しいんじゃないの?」と思うかもしれませんが、「濃いトマトは作れるけど、健康的で美味しいトマトには水が重要」なんです! トマトの糖分や旨味は光合成によって作られます。その時には水は欠かせません。

特に夏場の水管理は重要です。夏場に水が切れると様々な障害の要因となります。ただ、与えすぎは要注意! 水は多くても根を傷めることがあります!

生育初期は株元に、大きくなるにつれて徐々に範囲を広げて水を与えてください。枝先の真下あたりまで与えるイメージです。通常は葉には直接かからないように心がけてください。病害のもとになる場合があります。液肥を混ぜて使う場合は週1~2回の頻度で、葉面散布代わりに葉に与えても大丈夫です!

1回あたりの水やりの目安

「草丈cm × 10 cc」程度

水やりと葉面散布

例)

草丈 30 cm × 10 cc = 300 cc

草丈 100 cm × 10 cc = 1000 cc



YOUTUBE

付属の液肥の使い方

「プロモートR」「PSダッシュMEネオ」「微量元素の宝船」を各スプーン1杯(約2ml)を4Lの水で溶かして(約2000倍希釈)、株元から少し離れたところに水やりの要領で与える、あるいは噴霧器などで葉面に直接散布してください。

定植後、週1~2回の頻度で与えてください。

鉢植え、プランターの場合は蒸散が激しいのでこまめに水やりすることをお勧めいたします。特に夏場はあっという間に干上がってしまいますのでご注意ください。



与える範囲を生育に合わせて広げてください。

ワンポイントアドバイス 葉面散布について

葉面散布は葉や茎から養分を与える方法で、チッソ以外にもミネラルや微量元素を必要な場所に与えることができます。

また、根が傷んで肥料の吸収が悪いときなどにも効果的です。

状況によってアミノ酸液肥を500~1000倍に薄めて散布したり、付属の液肥やカルシウムなどをお酢で溶かした酢酸カルシウムなどを与えることができます。

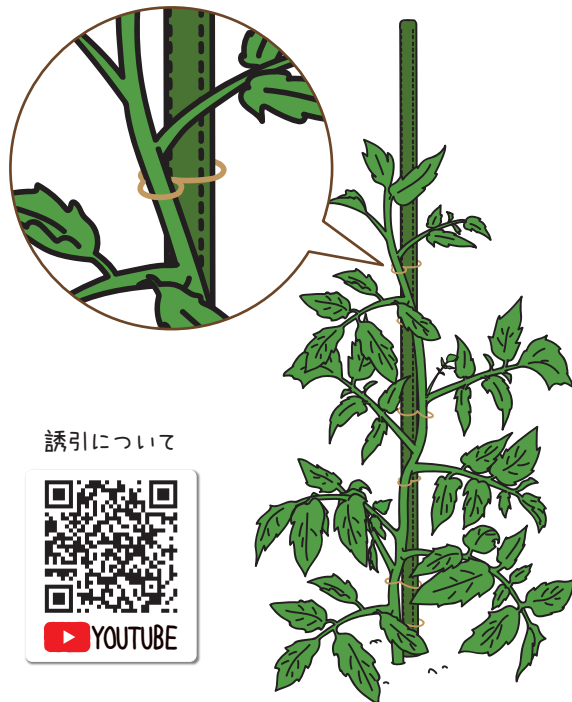
この時、希釈倍率や散布の時間帯(高温期や夕方など)を誤るとかえって傷めることがありますのでご注意ください!



8. 誘引

トマトはつる性植物ではないので、支柱に自ら絡みつ়くことはありません。
人の手で麻ひもなどをつかい、支柱にくくりつけてあげることがあります。この作業を誘引といいます。

麻ひもを使う場合は植物側から巻き始め、**8の字**にして支柱側で結びましょう。
少し余裕を持たせてください。トマトは生育とともにある程度茎が太くなります。
この時、紐に余裕がないと茎に食い込んで生育に影響を与えることになります。
茎の太さは1cm程度が目安（ソバージュ栽培ではもっと太くなります）なのでそのくらいの余裕を持たせてください。詳しくはYOUTUBEをご覧ください！



誘引について



YOUTUBE

9. 脇芽の管理



生育が進むと脇芽が出てきます。1本仕立ての場合、脇芽は適宜取りますが、**1段目の実がつくころまでは残しておくことで生長ホルモンが分泌され、根張り促進にもつながります。**
その後は脇芽が10cm程度（花芽がつく前）まで伸びてから取ることを心がけましょう。詳しくはYOUTUBEをご覧ください！

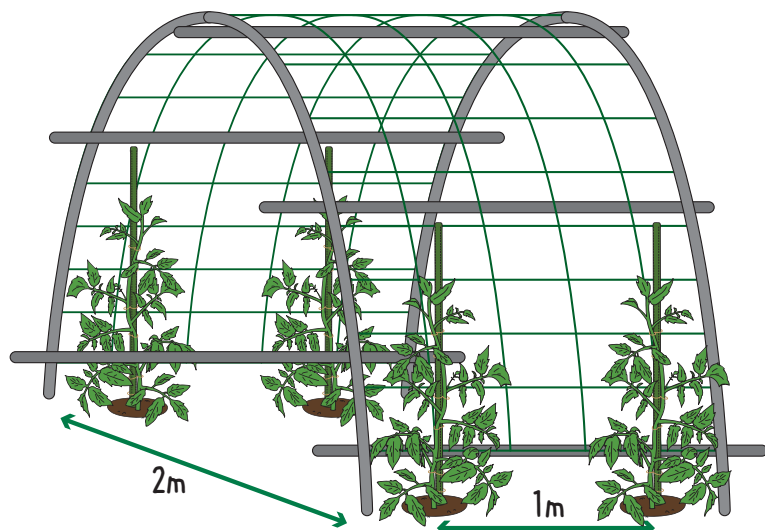
一方で、脇芽を残して管理する「ソバージュ栽培」という技術もあります。ミニトマトは生育が旺盛なため、脇芽の先についた実も収穫できることがあります。その性質を応用した栽培方法です。
その際は、果房のすぐ下にある脇芽だけを残して、その他の脇芽は取ってください。
残しすぎても繁茂しすぎて管理しにくくなり、実も小さくなってしまいますのでご注意ください。

脇芽の管理



YOUTUBE

ソバージュ栽培のイメージ



ソバージュ栽培とはアーチ状仕立てる栽培方法で、脇芽を活かして収穫量を上げる栽培方法です。キュウリパイプなどを使いアーチを仕立て、株間を1m、アーチ内は2mほど開けて管理します。詳しくは下記を参照してください。



ソバージュ栽培マニュアル

10. 葉かきについて



葉は下段から順に枯れてきます。これは葉の役割を終え、葉の残されていた養分を移動し、他の葉や莖で使うためです。役割を終えた葉は乾燥したのちに水分を含むと病害の原因となるので下の葉から順に葉を欠いていきます。家庭菜園では意図的に葉を切ることはほとんどありませんが、風通しが悪かったり、ソバージュ栽培などで葉が多くある場合は管理をしてください。まとめて一気に切ってしまうと植物にストレスがかかるので、1回で3段階程度を目安にしてください。実が着いているすぐ下の葉は極力残してください。味に寄与する大事な葉です。

詳しくは
こちらを！



葉かきについて

11. 追肥について

1回目の追肥は定植後1か月程度(おおよそ3段目の開花頃)から樹の様子を見て行いましょう。

追肥量は1株あたり、化成肥料8・8・8を10gと苦土石灰を15g程です。株元を20cmほど避けて追肥してください。その後は樹の様子を見ながら、2週間に1回の割合で同量を追肥します。

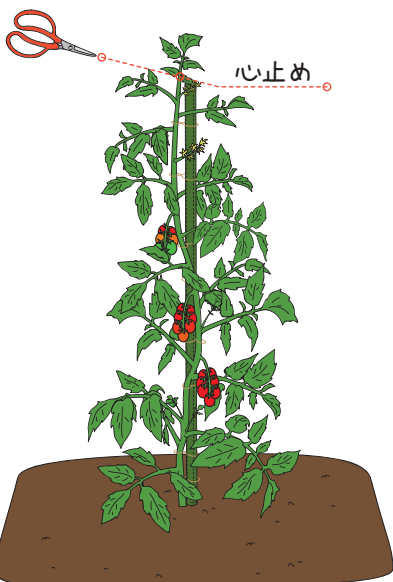
鉢植え、プランターの場合も畑と同量を与えてください。チッソ分の流亡を考慮し、面積あたりに対して少し多めの追肥となります。生育に伴い、施肥をする位置も徐々に離していきます。

樹の様子を常にチェックし、右図のように葉の中央がボコボコしていたり、葉の色がやや黒っぽい緑色の場合は場合はチッソ過多なので1週ほど空けて様子を見ましょう。(病虫害・生理障害のページを参照願います。)



枝先の真下あたりに与えてください。

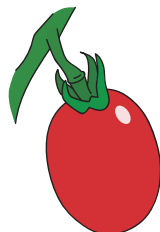
12. 収穫と心止め



収穫は完熟する直前で採るのがオススメ！味も良く、栄養もたっぷりです！雨に当たると割れやすくなったり味も落ちますので、雨予報が出ているときは色づいたものを前日までにどんどん収穫しましょう！

9月の最終週頃になったら、心止めを行います。心止めとは生長点を切ることで残った養分を実に回すための重要な作業です。生長点を切った後、残りの実がすべて熟したら収穫終了！

お疲れさまでした！



詳しくはこちら！



美味しいとまとの育て方



食と農
を通じて人々の
健康を支える



青空トマト学園
心と体をうるおす生活

<https://aozora.p-e-s.co.jp/>



 **パイオニアエコサイエンス株式会社**